

安全・安楽な経管栄養体位の確立

～キーワードはプカプカプヨプヨ～

財団法人 小倉地区医療協会 三萩野病院

看護部 三階病棟 村田知世 山下奈々美

テーマ選定理由

【病院理念】患者様本位の医療サービスを提供します

【看護部理念】患者様とその家族および看護者も満足できる、科学的根拠に基づいたやさしい看護を提供します

作成日:H21.1.12

作成者:村田

図1 マトリックス図

【部署方針】多職種と患者様の情報を共有しケアの質を高める

◎:5点 ○:3点 △:1点

評価点	0.8	0.8	0.9	ウェイト付け			0.8	1.0	0.8	0.9	0.4	評価点	総合評点	着手順位	
	CS向上につながるか			上位方針 問題点 評価項目	改善要求度			メンバーの能力							
	サービスの向上	適しているか	院長方針に 解消できる		緊急度	重要度	実現度	自分達で 解決できるか	6ヶ月で 解決できるか						
12.5	◎	◎	◎	入浴後患者様の持ち物の紛失が多い			◎	◎	○	○	◎	16.1	28.6	2	
12.5	◎	◎	◎	ファウラー位時、患者様のポジショニングが行えていない			◎	◎	○	◎	○	◎	17.1	29.6	1
10.9	◎	○	◎	タッチセンサーを装着していても外れやすく、センサーが鳴らない時があるため患者様に危険がある			◎	○	○	◎	○	◎	11.9	22.8	3
8.9	◎	◎	△	入院時の検査チェックもれがある			◎	◎	△	○	△	◎	12.9	21.8	4
12.5	◎	◎	◎	患者様の清潔ケアが行き届かない事がある			◎	○	△	△	△	◎	9.1	21.6	5

【ファウラー位とは】

頭位を45～60度挙上させ、膝を軽度挙上・屈曲させた体位
(米国外科医Fowler,GeorgeRyerson考案)

【ポジショニングとは】

マーケティング用語として、またスポーツ界で使用されていたが、現在は看護・介護の場面で安定した安楽な体位保持として使用されている。

問題点の明確化

調査期間:H21.1.13～H21.1.20 作成日:H21.1.25 作成者:豊住

図2 ファウラー位をとる場面 N=132

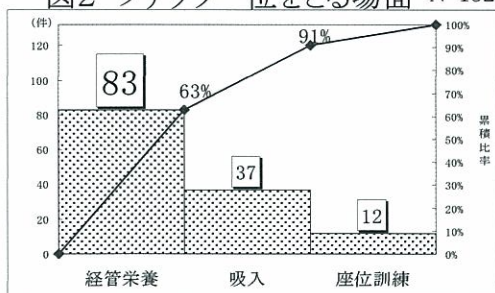


図3 ファウラー位での身体のズレが生じた件数 N=132

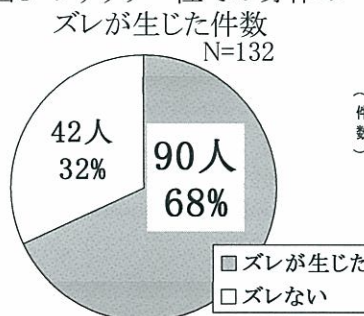
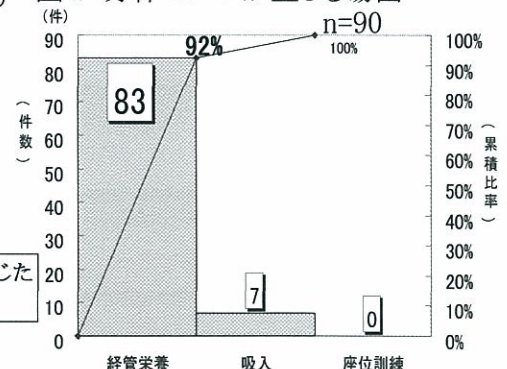


図4 身体のズレが生じる場面 n=90



【分かったこと】

- ・図2よりファウラー位をとる場面は経管栄養時が最も多い。
- ・図3よりファウラー位では68%の患者様が身体のズレが発生していた。
- ・図4より身体のズレが生じるのは経管栄養時であった。

姿勢は、嚥下や食事動作に大きく影響するので、身体の状態に合わせて正しく、安楽な姿勢を保持することが大切である。

テーマ決定:安全・安楽な経管栄養体位の確立

サークル名		マスオさんサークル		(平成 10年12月結成)	
リーダー氏名 (職種)	村田知世 (看護師)	所属部門	看護 管理 医療技術 事務管理 その他()	月あたり会合回数	5回
リーダー経験年数	年6ヶ月	QCストーリー	問題解決 課題達成	平均会合時間	30分
メンバーの数	計10名 うち男 0名 うち女 10名	活動内容	質 能率 CS 安全 モラル コスト	平均会合出席率	100%
				テーマ歴 (このテーマで)	23件目

現状把握

調査期間: H21.1.21~H21.2.20 作成日: H21.2.25 作成者: 阿部

図5 業務フロー図

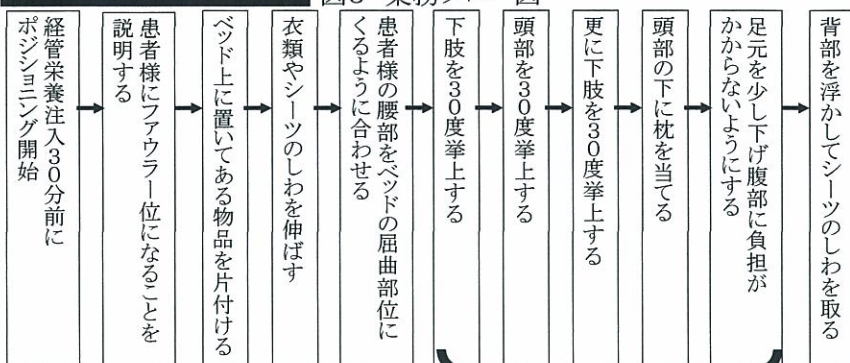
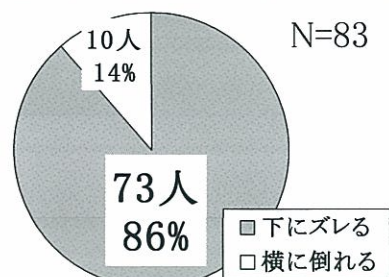


図6 経管栄養時の身体のズレ方

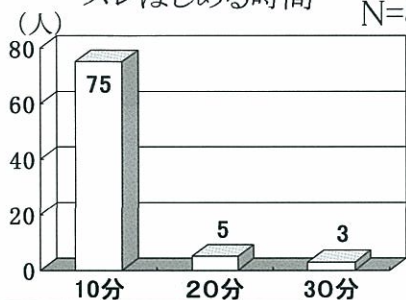


【身体のズレとは】

皮膚と筋力の間に外力によってせん断力が働き、皮膚組織にズレが生じることである

<出典:褥創ケアガイダンス>

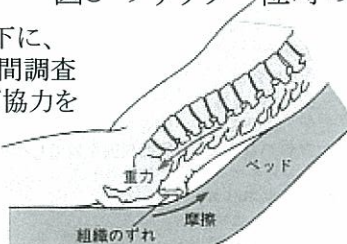
図7 ファウラー位の後に身体がズレはじめる時間 N=83



【倫理的配慮】

ご家族の同意の下に、身体のズレ発生時間調査のための30分間ご協力をいただいた。

図8 ファウラー位時の組織のズレ



ファウラー位によって生じる組織のズレは皮膚の毛細血管が引き伸ばされることで、組織が血流障害を起こす。

<出典:実践臨床看護手技ガイド>

目標設定

表1

作成日: H21.2.27
作成者: 村田

何を	経管栄養時のポジショニングができていない83件(83%)
いつまでに	平成21年4月30日までに
どうする	0件(0%)にする
根拠	患者様へ身体のズレによる悪影響を防止するため

活動計画

表2

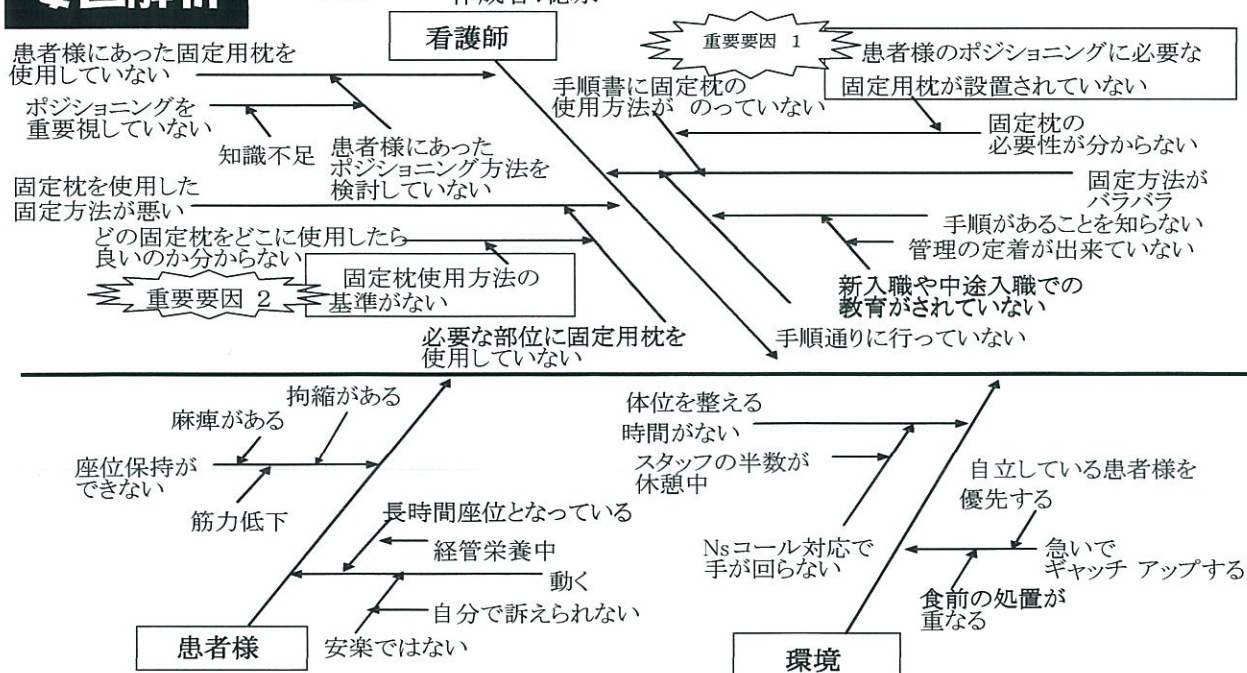
作成日: H21.2.27
作成者: 豊住

	1月	2月	3月	4月	5月	担当者
テーマ選定	→					全員
現状把握		→				村田 豊住
要因解析			→			阿部 徳永
対策立案・実施				→		白石 山下
効果の確認					→	津崎 川口
標準化と管理の定着					→	徳永 山下
反省と今後の課題					→	全員

要因解析

図9

作成日: H21.3.27
作成者: 徳永



経管栄養時のポジショニングが出来ていない

重要要因の検証

調査期間: H21.3.21~H21.3.28 作成日: H21.3.29 作成者: 阿部

重要要因2: 固定枕使用方法の基準がない

重要要因1: 患者様のポジショニングに必要な
固定用枕が設置されていない

図10 患者に使用している固定用枕の個数

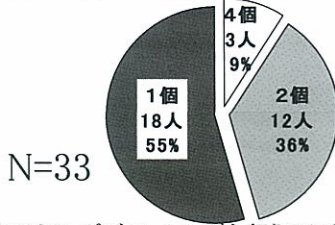
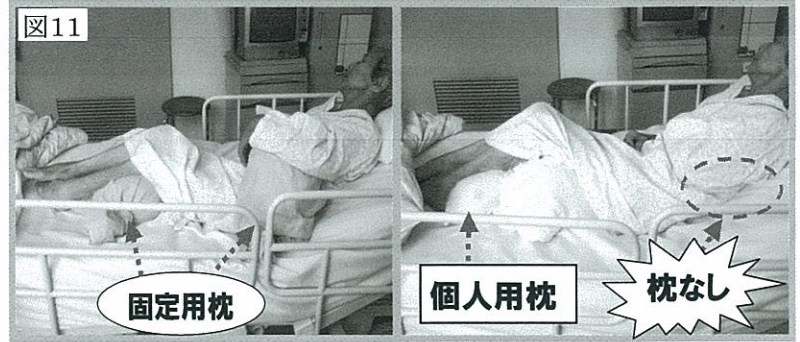


図10より: ポジショニングを行うのに固定用枕は最低でも2~3個必要であるのに対し、
実際には1個しか設置されていない患者様が多く、固定用枕の設置数も
決まりはなくバラバラであった。

図11・12より: 安全安楽な体位保持に関するマニュアルがなく実際の固定方法も
統一されていない



重要要因は真の要因

対策立案・実施

図13

作成日: H21.4.1 作成者: 白石

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	実現性	点数	対策
ポジショニングに必要な固定用枕が設置されていない	ポジショニングに必要な固定用枕を設置する	現時点での固定用枕の個数を確認する	リネン庫に固定用枕の個数と患者様の貸し出し数が分かるようにチェック表を貼る	○	◎	8	
			固定用枕を増やす	△	△	2	
			患者様に必要な固定用枕が把握できるようにチェックリストを作成する	◎	◎	10	1
			看護部伝達シートに固定用枕の必要数を記入する	○	◎	8	
			朝の環境整備時に定数をチェックし揃える	◎	◎	10	2
固定用枕使用方法の基準がない	固定用枕使用方法の基準を作る	看護者の固定方法を定める	朝のカンファレンスで患者様の固定方法について話し合う	◎	◎	10	3
			勉強会を開く	○	◎	8	4
			正しいポジショニング方法の手順書を作成する	◎	◎	10	5
			ポジショニング方法を図にしてベッドサイドに貼る	◎	△	6	
			患者様の見本の体位がすぐに分かるように写真をロッカーに貼る	◎	○	8	
			看護部伝達シートにポジショニングの方法を記入する	○	○	6	
			使用部位に応じて枕カバーの色を統一する	◎	◎	10	6

図14

作成日: H21.4.10 作成者: 山下

対策	何故	いつ	何処で	誰が	何を	どうする
1	必要数が誰でもすぐ分かるように	4/10	サービスセンター内	川口	固定枕のチェックリストを	作成する
2	過不足を無くすために	朝の環境整備時	病室	日勤者	固定用枕の数を	点検・準備する
3	安全安楽なポジショニングを統一するために	4/10	サービスセンター内	日勤者	各患者様のポジショニング方法を	検討する
4		4/10	チームカンファレンス	白石	固定用枕の使用方法を	伝達講習する
5		4/10	サービスセンター内	白石 津崎	手順書を	作成し、説明指導する
6	適切な部位に使用できるように	4/10	サービスセンター内	村田	固定用枕カバーを	色分けする

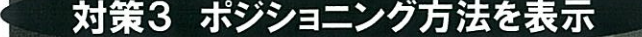
対策2 固定用枕を設置



対策1 固定用枕のチェックリスト



対策3 ポジショニング方法を表示



対策6 固定用枕カバーの色分け

青色: 背中用 49cm×31cm

黄色: かかと用 32cm×18cm

図16

緑色: 脚用

55cm×21cm

図17

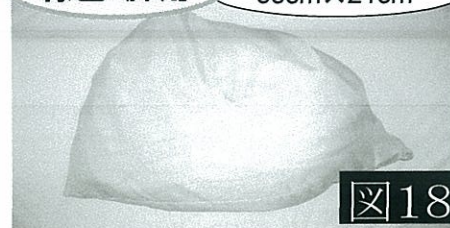
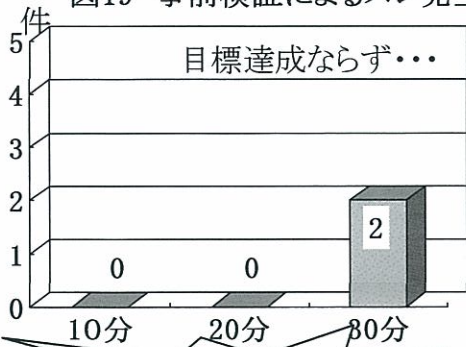


図18

図19 事前検証によるズレ発生

調査期間:H21.4.5~H21.4.19 作成日:H21.4.25 作成者:津崎



追加対策(対策7)

なんと2件ズレ発生！
枕の位置に個人差が見られた

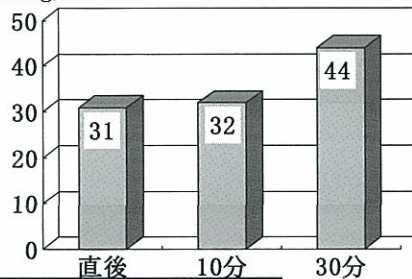
図21 作成日:H21.4.28 作成者:川口

対策	何故	いつ	何処で	誰が	何を	どうする
7	ズレを なくす為	4/19	チームカンファレンス時	川口 白石 徳永	個別の 固定方法	周知されるよう 伝達する

新たに問題発生！

図22 発赤出現患者様の体圧変化(仙骨部)

(mmHg)



効果の確認

図25 ポジショニング実施後の
体圧の変化

(mmHg)

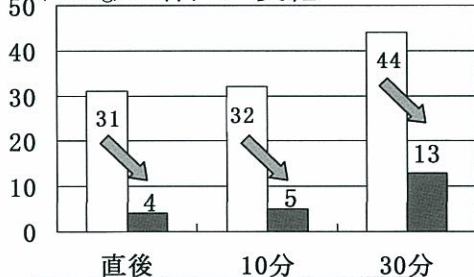


図23



図24



リハビリ科と協働し、
仙骨部に体圧が
かかりにくい
ポジショニング方法に
ついてカンファレンスを
実施した。

両殿部下に**プヨプヨ**ビーズクッションを置き、
仙骨部に空間(**プカプカ**部)を作った

図26 有形効果

調査期間:H21.4.19~H21.4.26

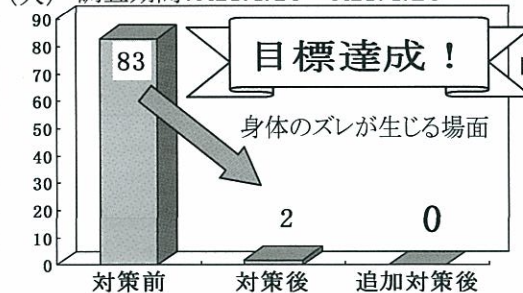
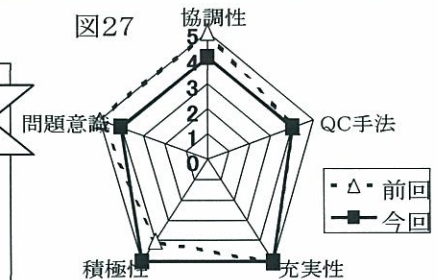


図27



標準化と管理の定着

図28

作成日:H21.4.26 作成者:徳永

作成日:H21.5.9 作成者:山下

	なぜ	いつ	何処で	誰が	何を	どうする
標準化	統一したポジショニングが行えるように	4/28		サークル リーダー		病棟手順書に追加した
教育	正しいポジショニングをスタッフ全員が 理解し実施出来るように	新・中途 転入職時	サービス センター	チーム リーダー	正しいポジショニング の手順書を	説明し指導する
管理	正しいポジショニングを保持する為に	毎食時	病室	担当 看護師	ポジショニング 方法を	チェックする

反省と今後の課題

図29 作成日:H21.5.7 作成者:徳永

	反省	今後の計画	いつまで
サークル運営面	○ポジショニングに対する意識が高まった	マニュアル通りに行っていく	継続していく
	× 初めてのリーダーということもあり計画的に 行えなかった	事前に会合するテーマを決めメンバーに告知する	今後の活動で
テーマ決定のステップ面	○患者様本位のテーマを選定する事が出来た	今後もより良いテーマを見つけていく	継続していく
	△ 重要要因の決定に時間がかかった	ステップリーダーがリーダーシップをとり活発な会合を 行っていく	次回の活動で
	× 欠席者ノートを上手く活用できなかった		

《今後の展望》

今回は自部署での取組みだったが、今後は他部署でも水平展開できるよう継続して行きたい。